

## 最近の本から

津守 真

清水えみ子著 「ママ!! きいて きいて」  
(教育出版 昭五十)

清水えみ子氏は、これまでも幼稚園の中  
でとらえた子どもの姿を、数冊の書物にし  
ておられるが、今回の書物は、幼稚園の教  
師である著者が、幼稚園の外でとらえた子  
どもと母親との対話を集めて注釈をつけら  
れたもので異色である。実例を示さない  
と、面白味がわからない種類の書物なの  
で、いくつか引用してみる。

「母 あぶないでしょ。やめなさいね。  
子 そつとやってみたいいな、やれそうだか  
ら。 母 いけません。やめなさいってい  
っているでしょ。」(P.6)

「子 それはいやなんだよ。パンタロン  
なんて、おんなのものだよ。いらぬ。か  
うなよ……。 母 買ってもらうのになん

です。わがままいって。子 いらぬいよ  
うちにあるのはいていくよ。かえろうよ。  
うちでテレビみたほうがずっとずっとよか  
ったよ。 母 これ買うわよ。これはかな

いならお留守番よ。」(P.94)  
どこかで出会ったことがあるような、こ  
んな対話集が八十五もつづく。

幼児に関心のある人は、よく目のとまる  
ような場面でありながら、これだけ根気よ  
く記録されたものは、他に類がないだろ  
う。私はずっと以前に、著者から、こうい  
う記録を集めておられる話を聞いたことが  
あったが、それから十年近くもかかって、  
とうとう本にされたことにおどろいてい  
る。ここには、事実を見ることのできる眼  
がある。子どもの心の成長を考えると、  
母と子なのに、どうしてという、こども

結局は解けていない疑問が流れている。

母親の否定的なことばが多く採録されて  
いながら(それは街角でよく前会う事実な  
ので)、それは冷たい批判ではなく、これ  
が著者の幼稚園の母親だったなら、一押し  
で逆転するようなものだろうと思った。

母親の温かい肯定的なことばも採録され  
ている。否定的なことばが、よく街角で気  
がつくのに対して、肯定的なものは、指摘し  
てもらわなければ、その温かさに気がつき  
にくいものである。幼稚園の保育でも、本  
当に子どもにとって、温か味のあるよい保  
育は、何気なく、あたり前のように見過し  
てしまつて、他人にわかりにくいものであ  
ると、あらためて思った。

楽しんで子どもの仕事をしておられる著  
者の生活から生まれた楽しい本である。母  
親に考えてもらうのに、有効なテキストで  
あろう。